

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277102576		
法人名	有限会社 ハピネス		
事業所名	グループホームひまわり	ユニット名	夢
所在地	静岡県浜松市東区中野町4258		
自己評価作成日	平成24年12月12日	評価結果市町村受理日	平成25年4月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhvu_detail_2010_022_kan=true&JivvosvoCd=2277102576-00&PrfCd=22&VersionCd=

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成25年2月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームひまわりは「利用者主体」の姿勢を基本とし、1人ひとりの心に寄り添い日常生活の中で喜怒哀楽と一緒に分かち合える関係作りに努めています。建物は木造作りとなっており、陽の光を多く感じる温かみのある空間を作っています。理念である「個を尊重し 生きがいのある 安心した暮らし」の実現に向けて職員とご家族がよく話し合い、笑顔で生活できるように日々の実践を取り組んでいます。地域交流にも積極的に参加しており、地域に根付いたホームになるよう心掛けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

幹線道路から少し入った、まだ辺りに田園が残る静かな場所に二階建てのホームがある。夏祭りや盆踊りの会場となる施設は住民との交流も日常的であり、小学生の見守りの為の「かんがるーの家」の看板は、地域の安心に一役買っている。災害時には近隣住民が応援に駆け付けるなどの連携がある。理念に基づいた「一人ひとりの心に寄り添う」介護の基本姿勢は、利用者・家族が安心して過ごすことを意味している。全職員は基本的な教育指導を受けた後、全ての利用者として接しながら、ケアプランの立案までもが可能となる知識とスキルを修得して行く。管理者とケアマネジャーは連携してこの教育プログラムを実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「個を尊重し 生きがいのある 安心した暮らし」を理念にあげ実現に取り組んでいる。	入社時から、理念の意義とその理解を深める為の研修を繰り返し実施している。全職員が共通の意識をもって、理念に沿った「寄り添うケア」を柱とする介護方針の、実践に向けた取り組みをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域行事に参加している。お祭りの盆踊り会場として駐車場を利用して頂いた。	花火と踊りの夏祭りには、施設の駐車場を手踊り会場とし、バンド演奏会を開くなど、利用者も待ち望む行事となっている。地域の子供会や各種団体・商店等、近隣住民との世代を超えた交流が進められている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学生の福祉体験学習を行い24時間職員が在中していることから「かんがる一の家」として看板をあげている。また認知症サポーター講座を開催した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議は2ヶ月に一度開催している。自治会長、入居者ご家族、市及び包括支援センター職員、ホーム職員で運営状況の報告や入居者の生活向上に向けた話し合い、災害時への協力に向けた話し合いを行っている。	家族や住民・行政関係者と、できるだけ丁寧に話し合いを行っている。安全な施設運営とサービスの質の向上に反映させることのできる、現状報告のみに留まらない会議になるよう心掛けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市関係機関の方の運営推進会議への参加、生活介護相談員の訪問があり、ご意見を聞く機会がある。	運営推進会議等の機会に、行政担当者と可能な限り時間をかけて意見交換を行うよう努めている。積極的に窓口に出向き、介護全般に関し具体的な相談をする取り組みを、今以上に進めて行く方針である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設当初から身体拘束は行わず、入居者様の気持ちを尊重した生活が出来るような支援を全職員が心掛けている。	身体拘束に関する理念と行動指針で、尊厳を守るケアの方針を明確にしている。職員には、禁止の対象となる行為の、正しい理解を促す研修を実施している。出入口の施錠を含め、身体拘束の事例はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	全職員が何が虐待に当てはまるかをきちんと理解し、虐待が見過ごされないよう常に注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している入居者様がいらっしゃる為、職員全員が理解できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談、訪問調査、契約時に契約内容の説明を分かり易く行い入居者様ご家族との関係作りをすることで不安等を尋ね繰り返し説明することで納得理解して頂き改定時には変更内容を十分に説明し理解納得をして頂く。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には日々の状況報告や相談等を行う。また運営推進会議に参加して頂き運営状況の報告やご意見を頂いている。	関係者は何時でも意見等表せることを伝え、管理者とケアマネジャーは連携して対応している。年2回家族のもとへ出向き話し合う機会を設けている。意見や提案等運営に反映させるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各職員に役割を持ってもらい運営者や幹部職員が定期的に面接を行い意見や提案を聞く機会を設け反映するようにつとめている。	利用者全員の状態が記録された書類を基に、ケア業務責任者会議で、現場の意見や提案とあわせ、詳細に検討される。年に3回の個人面談があり、幹部と職員の意思疎通を図った上で運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員1人ひとりの状況把握に努め勤務調整や雇用形態の変更を適時面談し変更している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員1人ひとりの状況に合わせた法人内部の研修を行ったり外部研修への参加を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で事例発表会を行うなど職員交流を行っているが、定期的な交流にまでは至っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から入居されるまでに職員がご本人の自宅や施設に伺い、ご本人の声に耳を傾けて対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に職員とご家族の面談の時間を設け、ご家族の要望などに耳を傾け対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の意見を聞き、職員は情報を収集して必要なサービスは何かを見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1人ひとりにあったケアをすることで、出来ること出来ないことを見極め、出来ることは職員と一緒に言い、共に過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員がご家族の面会時や電話などでご本人の状態や様子を伝えて、ご本人とご家族との絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が今までの生活の中で使っていた家具や仏壇などを持ってきて頂いている。また面会もご家族以外の方も見えている。	馴染みの美容院の利用や墓参り等、家族の支援により継続されている。毎日家族が食事介助に来所したり、孫や娘等多くの面会がある。また退所した利用者との交流が、途切れることなく続けられている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士で過ごせる場を設けてコミュニケーションを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方でも、電話や手紙などでやり取りをして、相談や施設、病院等の転院等フォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望等を聞き、情報収集を行いケアプランに反映させケアの統一に努めている。	日々の利用者との関わり(声掛け・動作・表情の観察)の中で、一人ひとりのニーズの把握に努めている。その情報をケアノートに記入して職員全員がケアの統一に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人、ご家族より情報収集を行い、当施設でも馴染みのある生活が出来るように配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	何かを強制するのではなく、その人の状態に合わせて居室で休んだりテレビを観たり新聞を読んだりのご本人のペースで生活して頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアの統一を図る為にケアノートを活用し職員間で情報を収集し、交換及び共有することで介護計画に反映している。	職員全員が本人・家族及び関係者からの情報でアセスメントまとめシートを作成し、ケアプランに反映している。シートを使う事によって、職員が共通の認識をもって本人を支えるチームの力が深まり、育てられている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの統一、向上を図る為に毎日ケア確認を行い、職員間で情報交換、収集を行うと共に毎日の日勤帯と夜間帯の様子を個別に記録し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様やご家族の要望に応じて買い物や外出支援、イベントを企画し、個別の関わりと支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学校から体験学習を受け入れることで、入居者様と子供たちが交流する機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人にとって必要性の高い専門医を看護師と相談し決めていただき、適切な医療を受けられるよう努めている。	かかりつけ医は家族の希望に沿って決められている。協力医は月2回の往診や24時間態勢の対応が構築されている。本人の必要な診療科目受診の際は家族が付き添うが、不可能な場合には職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、ホームの看護師による健康管理と、かかりつけ医による2週間に一度の往診及び24時間の電話相談など、連携して支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人の現状と今後の予測できる状態について、看護師や主治医と相談し、早期退院に向けてできる限り務めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご契約時に重度化における対応方針を話し合い、その後も状態に合わせてご家族とかかりつけ医との話し合いの場を設けて方針を決めている。	看取りケアに関する事業所の方針や、意思確認の書面が整備されている。本人や家族・医師・職員等の状況の変化の都度、話し合いを繰り返し、安心して納得した最後を迎えられるよう取り組んでいる。今年度2名の看取りをした。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が定期的に行われている訓練に参加できていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回、防災訓練を実施し、消防署職員より安全な避難誘導の方法を学び、地域の防災訓練にも参加している。	防災訓練（避難訓練・夜間想定・車椅子での避難）を実施している。近隣（3軒）の住民に来所して頂き、利用者毎の避難形態が記入された表札裏を確認しており、地域との協力態勢ができています。	防災訓練の際消防署員より、避難用滑り台の設置を提案され、設置計画が具体化した。ハード面の整備に合わせてマニュアル等ソフト面での整備も期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりのプライバシーを損ねることのないよう個人情報の取り扱いに注意し、理念である個を尊重するように努めている。	理念である「個」を尊重し一人ひとりにあったケア・声掛け・ペースを大切にされた支援がされている。面会簿に関する工夫等、個人情報の管理にも不備はない。誇りやプライバシーを損ねることのないように研修を重ねている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1人ひとりの力に合わせた声掛けと働きかけをし、できる限り自己決定して頂けるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのペースを大切にしながら生活リズムを作っていけるよう可能な限り支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な限りその方の好みに合わせている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様に合わせて、できることを職員と一緒にやっている。	3食とも職員の手作りである。栄養士でもある介護職員が献立を立てている。介助の必要な利用者には家族が毎日介助（職員見守り）をしたり、他家族も来所して皆和やかな食事風景であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりの食事量を把握し、食事の形態や盛り付ける量を個別に工夫し、美味しく召し上がって頂けるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは難しいが、昼食後と夕食後にはうがいや歯磨きなど入居者様に合わせた口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンやサイン、行動から無理のないよう排泄できるようにし、気持ちよくすごして頂けるよう支援している。	排泄パターンを把握しており、一人ひとりのパターンに応じた個別の排泄支援をしている。声掛けやドアの外から見守りをするなど自尊心に配慮した支援を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事やおやつに食物繊維の多いものを取り入れたり、腹部マッサージや水分補給に気をつけている。又、主治医と相談して便秘薬も活用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望や体調に合わせて入浴できるようにし、週3回入れるように無理のないよう声掛けしている。	基本的には週3回の入浴日としているが、希望があったり、汚染等ある時は随時入浴している。拒否のある利用者に対しては声掛けの工夫や職員を変えたり、同性介助にする等対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午後からは落ち着いた生活が出来るように温度や照明、物音などに配慮し環境を整え、夜安心して休んで頂けるよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	どんな薬を飲んでいるか、すぐに分かるように内服薬説明書をファイリングしている。又、入居者の状態変化を医師に相談し、薬の形状や内服方法も随時個別に変更している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯物干し、食器拭きなど、個々の能力を活かした生活の役割やDVDを観て楽しんだり充実した生活が送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩など入居者様に合わせ個別に支援している。ご本人の希望に合わせて外出したり楽しみが持てるような支援を心掛けている。	気候の良い時には散歩や花見に出掛けている。畑でのイチゴ狩りや季節の野菜を収穫している。本人の希望に添って、職員が洋品店や外食等に臨機応変に対応している。家族との外出も多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の状況に合わせて、ご自分で管理できる場合は所持して頂いている。又、買い物の際には状況に応じてご自分で支払いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と相談の上、電話して頂けるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を心掛け温度、湿度管理を行っている。玄関や居室、階段などに季節の花を飾ったり、イベント行事を行うことで季節感を感じていただけるよう支援している。	共用の空間は和風で、木製の格子戸や椅子・テーブルに落ち着きがあり温かみを感じる。フロアには障害となるものは無く、掃除が行き届いている。コーナーのソファはくつろぎの場となり、畳のスペースは洗濯物の整理や、利用者が休息する場所になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前のソファに座ったり別フロアの入居者様と交流を持つなどして、その人に合った落ち着ける場所や安心できる場所を作れるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様にはご本人、ご家族と相談し慣れ親しんだものを置いていただき、少しでも安心した暮らしができるような居室作りに努めている。	箆笥・仏壇・椅子・鏡・テレビ等、一人ひとりの居室には馴染みの物が持ち込まれ掃除が行き届き清潔で明るい。それぞれ個性的な部屋作りがされており、その人らしく安心して暮らせる環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様1人ひとりに合わせた生活が送れるように各居室の前に表札を設置したり、廊下に手すりを設けることで安全な生活が送れるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277102576		
法人名	有限会社 ハピネス		
事業所名	グループホームひまわり	ユニット名	空
所在地	静岡県浜松市東区中野町4258		
自己評価作成日	平成24年12月12日	評価結果市町村受理日	平成25年4月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2010_022_kan=true&JivvosvoCd=2277102576-00&PrfCd=22&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成25年2月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームひまわりは「利用者主体」の姿勢を基本とし、一人ひとりの心に寄り添い日常生活の中で喜怒哀楽と一緒に分かち合える関係づくりに努めています。建物は木造作りとなっており、陽の光を多く感じる温かみのある空間を作っています。理念である「個を尊重し、生きがいのある、安心した暮らし」の実現に向けて職員とご家族がよく話し合い、笑顔で生活できるように日々実践を取り組んでいます。地域交流にも積極的に参加しており、地域に根付いたホームになるよう心掛けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※ 複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「個を尊重し生きがいのある安心した暮らし」を理念にあげ実現に取り組んでいる。	※ 複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域行事に参加している。お祭りの盆踊り会場として駐車場を利用して頂いた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学生の福祉体験学習を行い、24時間職員が在中していることから「かんばんの家」として看板をあげている。また認知症サポーター講義を開催した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議は2ヶ月に一度開催している。自治会長、入居者ご家族、市及び包括支援センター職員、ホーム職員で運営状況の報告や入居者の生活向上に向けた話し合い、災害時への協力に向けた話し合いを行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市関係機関の方の運営推進会議への参加、生活介護相談員の訪問があり、ご意見を聞く機会がある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設当初から身体拘束は行わず、入居者様の気持ちを尊重した生活が出来るような支援を全職員が心掛けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	全職員が何が虐待に当てはまるかをきちんと理解し、虐待が見過ごされないよう常に注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している入居者様がいらっしゃるため、職員全員が理解できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談、訪問調査、契約時に契約内容の説明を分かり易く行い入居者様ご家族との関係づくりをすることで不安などを尋ね繰り返し説明することで納得理解して頂き改定時には変更内容を十分に説明し理解納得をして頂く。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には日々の状況報告や相談等を行う。運営推進会議に参加して頂き運営状況の報告やご意見を頂いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各職員に役割を持ってもらい運営者や幹部職員が定期的に面接を行い意見や提案を聞く機会を設け反映するようにつとめている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの状況把握に努め勤務調整や雇用形態の変更を、適時面談し変更している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの状況に合わせ法人内部の研修を行ったり外部研修への参加を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で事例発表会を行うなど職員交流を行っているが、定期的な交流までには至っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から入居さてるまでに職員がご本人の自宅や施設に伺い、ご本人の声に耳を傾けて対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に職員とご家族の面談時間を設け、ご家族の要望などに耳を傾けて対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の意見を聞き、職員は情報収集して必要なサービスは何かを見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりにあったケアをすることで、できないことを見極め、できることは職員と一緒にいき、共に過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員がご家族の面会時や電話などでご本人の状態や様子を伝えて、ご本人とご家族との絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が今まで生活の中で使っていた家具や仏壇などを持ってきて頂いている。また面会もご家族以外の方が見えている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士で過ごせる場を設けてもコミュニケーションを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方でも、電話や手紙などでやりとりをして、相談や施設、病院などの転院などをフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望などを聞き、情報収集を行い、ケアプランに反映させケアの統一に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人、ご家族より情報収集を行い、当施設でも馴染みのある生活が出来るように配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	何かを強制するのではなく、その人の状態に合わせて居室で休んだりテレビを観たり新聞を読んだりご本人のペースで生活して頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアの統一をはまる為にケアノートを活用し職員間で情報収集し、交換及び共有することで、介護計画に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの統一、向上を図る為に毎日ケア確認を行い、職員間で情報交換を行うと共に毎日の日勤帯と夜間帯の様子を個別に記録し日々の御計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様やご家族の要望に応じて買い物や外食支援、イベントを企画し、個別の関わりと支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学校から体験学習を受け入れることで、入居者様と子どもたちが交流する機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人にとって必要の高い専門医を看護師と相談し決めて頂き、適切な医療を受けられるよう努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、ホームの看護師による健康管理とかかりつけ医による2週間に一度の往診及び24時間の電話相談なぞ、連携して支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人の現状と今後予測できる状態について、看護師や主治医と相談し、早期退院に向けてできる限り務めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご契約時に重度化における対応指針を話し合い、その後も、状態に合わせてご家族とかかりつけ医との話し合いの場を設けて方針を決めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が定期的に行っている訓練に参加できていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回、防災訓練を実施し、消防署職員により安全な避難誘導の方法を学び、地域の訓練にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのプライバシーを損ねることのないよう個人情報の取り扱いに注意し、理念である個を尊重するように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの力に合わせた声掛けと働きかけをし、できる限り自己決定して頂けるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしながら生活リズムを作っていけるよう可能な限り支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な限りその方の好みに合わせている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者に合わせて、できることを職員と一緒にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量を把握し、食事形態や盛り付ける量を個別に工夫し、おいしく召し上がって頂けるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは難しいが、昼食後と夕食後には歯磨きやうがいなど入居者様に合わせた口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンやサイン、行動から無理のないよう排泄できるようにし気持ち良く過ごして頂けるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事やおやつに食物繊維の多い物を取り入れられたり、腹部マッサージや水分補給に気を付けている。又、主治医と相談して便秘薬も活用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望や体調に合わせて入浴できるようにし、週3回入れるように無理のないよう声掛けしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午後からは落ち着いた生活ができるように温度や照明、物音などに配慮し環境を整え、夜間安心して休んで頂けるよう心掛けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	どんな薬を飲んでいるのか、すぐ分かるように内服薬説明書をファイリングしている。 又、入居者様の状態変化を医師に相談し、薬の形状や内服方法も随時個別に変更している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯干し、食器拭きなど、個々の能力を活かした生活の役割やDVDを観て楽しんで充実した生活が送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩など入居者に合わせ個別に支援している。ご本人の希望に合わせて外出したり楽しみが持てるような支援を心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の状況に合わせて、ご自分で管理できる場合には所持して頂いている。又、買物の際には状況に応じてご自分で支払いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族との相談の上、電話して頂けるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を心掛け温度、湿度管理を行っている。玄関や居室、階段などに季節の花を飾ったり、イベント行事を行うことで季節感を感じて頂けるよう支援してる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前のソファに座ったり、別のフロアの入居者様と交流を持つなどして、その人に合った落ち着ける場所や安心できる場所を作れるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはご本人、ご家族と相談し慣れ親しんだものを置いていただき、少しでも安心して暮らしができるような居室づくりに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様一人ひとりに合わせた生活が送れるように各居室の前に表札を設置したり、廊下に手すりを設けることで安全な生活が送れるようにしている。		